

# とやまの祭り



# はじめに

富山県教育委員会では、平成16年度から「とやま文化財百選」事業を行なっています。これは、県内各地に残る身近な文化財を対象に、郷土の誇りとして末永く受け継いでいきたいものを選定して、県民の皆さんが、ふるさとの文化財の価値を再認識し、地域ぐるみで保存・活用していくきっかけにして頂くことを目的とした取り組みです。平成16年度の「土蔵」、同17年度の「獅子舞」に続き、今年度は郷土色豊かな「祭り」をテーマに、「とやまの祭り百選」として選定を行ないました。

このガイドブックは、富山県内の祭りの特徴や魅力とともに、選定された祭りの概要について紹介したものです。

ひとことに祭りといっても、開催される季節、場所、出し物などでは様々な様相がみられます。今回は、そんな祭りのうち、風流（ふりゅう）を中心とした民俗芸能や競技が伴うものを選定の対象としました。身近な文化財である祭りについて、一層の理解と愛着を深めて頂く手がかりとなれば幸いです。

## 目次

1 祭りを感じる とやまの四季.....1	6 「とやまの祭り」百選
2 祭りもさまざま.....1	春.....6
3 富山の祭りの特徴.....1	夏.....32
4 祭りの芸能の種類.....2	秋.....55
5 祭りの見どころ.....4	冬.....87
	その他.....90
	『とやまの祭り』百選カレンダー...92
	『とやまの祭り』百選一覧.....96

祭りは春夏秋冬の順で、かつ、開催日の早いものから掲載しています。

データは、平成19年3月現在のもので、見学の際には、事前にご確認ください。

【 】の国・県・市町村はそれぞれ国指定・県指定・市町村指定を、無形は無形民俗文化財を、有形は有形民俗文化財を指しています。

『とやまの祭り』百選は、主な民俗芸能の種類から以下のマークで分類しています。



神楽芸



田楽芸



風流(太鼓踊)



風流(念仏踊・盆踊)



風流(つくりもの風流)



風流(行列風流)



祝福芸



渡来芸・舞台芸



競技



その他

# 1 祭りを感じる とやまの四季

早春。立春を過ぎたとはいえ、まだまだ雪の季節で、富山の春はもうしばらく先である。しかし、祭りの準備はもう始められている。

春。獅子舞や神輿の祭り囃子、曳山の軋む車輪の音、人々の歓喜の声。祭りには人々のエネルギーが満ちあふれている。



八坂神社春季祭礼（富山市）

初夏。五穀豊穡を祈念する、夜高祭、田祭り、虫送り、熱送りなど稲作に係る祭りが所狭しと繰り広げられる。

夏。七夕や盆踊りなど夏祭りが開催され、人々は涼を求めて、くつろぎの時を過ごす。

秋。豊かな実りに感謝し、華麗な曳山が、大松明を使う祭りが、そして、獅子舞や民謡・民舞が夜遅くまで続けられる。

冬。里にも雪が積もり、人々は、じっと春を待つ。福を呼ぶ子供の唄や声が響きわたる。

一日あるいは数日のために、唄や囃子・舞の修得に没頭し、道具を磨き、古の教えに従って、祭りは守り伝えられる。

# 2 祭りもさまざま

祭りの場所となると、神社での祭りが多いものの、寺院での祭りや地区の家や小川でのものもみられる。

その性格をみると、五穀豊穡や大漁祈願、商売繁盛、厄災退散などに加え、祖先崇拜や娯楽休息を目的としたものもある。

出し物を見ると、曳山、行灯、稚児舞、仮装行列、民謡民舞、大盤持ち、奉納相撲など彩り鮮やかである。



山王まつり（富山市）

# 3 富山の祭りの特徴

富山の祭りは四季の変化に応じて様々な形態のものが継承されており、その特徴を拾い出してみると次のようになる。

獅子舞を伴う祭りが多く伝承されること。

大型のつくりもの風流が比較的数多く伝承されること。

火を道具とする祭りが多く伝承されること。

# 4 祭りの芸能の種類

## 1 神楽芸

神楽芸は獅子舞のみが伝わる。平成17年度現在で1,170件が継承されている。

## 2 田楽芸

唯一、射水市下村加茂神社に御田植祭が伝わる。境内に仮設の模擬水田が区切られ、稲作りの手順が演技される。



下村加茂神社の御田植祭（射水市）

## 3 風流

人目をひく趣向は風流（ふりゅう）と呼ばれるが、次のとおり多くの種類が伝わる。

### 太鼓踊り

酒樽や桶胴太鼓を勇壮に打ち鳴らして踊るものが、主に砺波平野にいくつか継承されている。

### 念仏踊・盆踊



城端むぎや祭（南砺市）

県内の盆踊は、県東部、県中央部、砺波地方で踊りの種類が異なる。かつては各地で継承されていたが、衰退は著しい。

また、典型的な念仏踊はないが、これに類似する願念坊踊がいくつか伝わるほか、チョンガレ踊りや民舞の町流しなどが継承されている。

## つくりもの風流

「つくりもの」とは、曳山や行灯、屋形船など、祭りの際に人々の目をひくために作られた特別な道具のことをいう。「つくりもの」は、神の依代として、神を迎える道具として、神の存在を際立たせるためといった性格がある。

ちなみに、「つくりもの」の代表格曳山など大型の作り物は、現在県内に24件が残り、全国的にも比較的密な分布が認められる。



生地たいまつ祭り（黒部市）

### 行列風流

風流の中でも最も一般的で、とりわけ神輿行列が最もなじみ深い。神輿以外に、獅子舞や仮装行列、つくりもの風流が一緒に練り回るものがある。さらに、稚児行列、竹飾りや人形などの小道具とともに地区内を練り歩く七夕、虫送り、堂めぐりなども含まれる。



よいやす祭り（南砺市）



## 4 祝福芸

県内には「やらやら」や「あがりもん」と呼ばれる祝福芸が継承されており、各種慶事や寺院の秘仏公開の際に行なわれている。この「やらやら」や「あがりもん」は、本県独特の行事である。



やらやら（小矢部市）

## 5 渡来芸・舞台芸

稚児舞や歌舞伎、雅楽、浄瑠璃、能などの種類があるが、県内では稚児舞、曳山歌舞伎が古くから継承されている。

### 稚児舞

寺社境内の仮設舞台上で奉納される稚児舞が4件継承されている。戦国時代に中央から伝播してきた文化に、修験の芸能、豊穰祈願や悪魔祓いなどに由来する芸能などが融合して生まれたと考えられている。



明日法福寺の稚児舞（黒部市）

### 歌舞伎

曳山の舞台上で演じる子供歌舞伎が砺波市で継承されている。

以前には魚津市や小矢部市の曳山でも歌舞伎が演じられていたとされる。



出町子供歌舞伎曳山（砺波市）

## 7 競技

### 体力競技

相撲大会や盤持ち大会が伝承されている。近代までは、各地で盛んに行なわれていたが、現在その多くが衰退している。



西ノ番神社奉納相撲大会（富山市）

### 技術競技

県内では、流錫馬1件が継承されている。

## 8 その他

上記のいずれにも分類しがたい祭りが若干ある。

## 5 祭りの見どころ

### 個性あふれる曳山

富山県は全国的には曳山が密に分布している地域のひとつであり、漆工・彫刻・染織工・金工の技術の粋を集めた豪華絢爛な装飾が施されている。

曳山は、大きく花山型と屋台人形型、子供歌舞伎型に分類できる。花山型の代表は高岡御車山、屋台人形型の代表は南砺市城端の曳山である。一見よく似ている各曳山も、地山（本体部分）や車輪の造り、その最上部に乗る「鉾留」、「標識」や花傘下の「本座」、「王様」の祭神、「相座」、「前人形」のからくり人形などが異なり、それぞれを特徴づけている。

また、狭い辻を曲がるための工夫や徐々に華美になっていった様子がうかがえるもの、祭り囃子の弾き手が意外なところにいるもの、などなど見どころはたくさんある。



### 曳山、夜高の「ケンカ」

伏木神社春季例大祭と岩瀬曳山車祭の曳山、南砺市福野、砺波市出町と庄川、小矢部市津沢の夜高祭では「ケンカ」が見どころのひとつである。

「ケンカ」は、「曳き合い」、「かっちゃ」、「突き合わせ」など呼び名も異なり、勢いよくぶつかり合うものや近距離から押し合うもの、相手を壊すことを目的とするものやそうでないものなど様々である。



### 稚児

子供はケガレを知らず、神の依代や奉仕者にふさわしいとされることから、祭礼や慶事に稚児がしばしば登場する。

稚児舞の稚児や出町子供歌舞伎の役者が舞台入りの際に大人の肩車で入場するが、これは地面を踏んでケガレるのを避けるためだとされている。



## 県内の稚児舞

県内で継承されている4カ所のうち、射水市下村加茂神社、富山市熊野神社、黒部市法福寺の3カ所は、「越中の稚児舞」として国指定重要無形民俗文化財に指定されている。

稚児の数はいずれも4人だが、舞う曲数や曲目はそれぞれ異なる。また、同じ曲目であっても舞やテンポも違う。



## 大火を伴う祭り

火は、明かりをとるため、暖をとるため、調理のためなど日々の生活に不可欠なものである。一方で人々は、神を導き迎えるため、災いの元やケガレを清めるため、火=神として祀るために火を使用する。

松明などを燃やし、五穀豊穡の祈願と田の神・水の神に感謝の念を表す。福野の夜高行灯の起源は、神を迎えに出かけた人々が手にした行灯とされる。築山神事では、神を依代に下るす際に火を焚いて場を清める。

提灯で飾られた曳山やタテモンの巡行

は、火=神の練り歩きを意味するという。

滑川ネブタ流しでは、眠気や穢れが封じこまれて燃やされ、流される。

厄や穢れを払うために獅子舞や神輿などが火渡りを行なう。

このように火は様々な形や目的で祭りに使われる。火を使う祭りが多いのは、冬に雪で閉ざされる多雪地帯ゆえだろうか。



## やらやら・あがりもん

県内各地で伝承され、寺社の遷宮式や遷仏式、御開帳などの慶事に行なわれる。他県ではあまり見ることができない祝福芸である。

藩政時代の参勤交代等の行列を真似たものといわれ、笛・太鼓の囃子と唄にあわせて、3歩進んで2歩下がるといったゆっくりとした歩みで行列が続く。

## 6 「とやまの祭り」百選



### 酒とり祭【市・無形】



**開催場所**：小矢部市下後巫（下後巫神明宮） **開催日**：4月11日

**概要**：獅子舞の奉納後、下帯姿の25歳の厄男たちが大鳥居から拝殿めがけて駆けつけ、神官のくみ出すお神酒を柄杓で受け、参詣人や見物人に飲ませ無病息災・五穀豊穰を祈る。酒を飲ませる男たち、参詣人、見物人などの歓声で活気づく。全国でも珍しい奇祭である。





## 熊野神社春季祭礼



**開催場所**：上市町熊野町（熊野神社） **開催日**：4月12日

**概要**：祭礼の前日（ヨイマツリ）に白装束に烏帽子（えぼし）姿の氏子にひかれた神輿が旧町部を1日かけて渡御する。かつては山車（町指定文化財）も曳かれていた。



## 境神社春季・秋季祭礼



**開催場所**：朝日町境（境神社） **開催日**：4月15日前後の日曜日、10月15日前後の日曜日

**概要**：地区の東西のはずれで神主と獅子舞による悪霊防御の「はな裃い」が行なわれたのち、神輿と獅子舞が地区内を回る。



たか さご やま がん ねん ぼう  
高砂山願念坊祭り【曳山：市・有形】



**開催場所**：富山市下大久保（下大久保八幡宮、上大久保天満宮）

**開催日**：4月第2日曜日

**概要**：八尾町の曳山を文久2年（1862）に譲り受けて始まった。現在の八尾曳山より小型で装飾も簡素な構造となっている。曳山の御神体に高砂をまつことが祭りの名称の由来である。願念坊踊は砺波地方より伝承し、一緒に演じられるようになったのは大正時代後期からとされる。



## 出町子供歌舞伎曳山【県・無形】



**開催場所**：砺波市出町（出町神明宮、中央通り） **開催日**：4月16～17日

**概要**：出町神明宮の春祭りに演じられる。西町、中町、東町の3基の曳山は、かつては毎年3基とも出ていたが、昭和44年からは、当番の1基だけで子供歌舞伎が上演される。県内に唯一残る子供歌舞伎曳山で、お祓いの後、鳥居前や辻々で上演される。



## まるまげ祭り(千手寺観音大祭)



**開催場所**：氷見市朝日（朝日千手寺観音堂、北六町の町内） **開催日**：4月17日  
**概要**：神輿の渡御にあわせ、稚児や丸髷姿の女性が町内を練り歩く。芸者が年に一度の公休日に、丸髷を結いお参りしたことが名の由来とされる。一時途絶えたが、参加者を公募して復活されている。



## ごんごん祭り



**開催場所**：氷見市朝日本町（上日寺観音堂、御座町日吉神社） **開催日**：4月17～18日  
**概要**：江戸時代の雨乞い修法に因み、境内鐘楼堂の梵鐘を松材の丸太で連打する。18日午後、上日寺の僧侶等は御座町日吉神社へ参詣し、神前読経を行なう。寺への帰還の際に南十一町の当番町から選ばれた稚児が同行する。その後、稚児等は観音堂の中で堂めぐりを行なう。





## 猪谷の百万石行列【市・無形】



**開催場所**：富山市東猪谷(素盞鳴社) **開催日**：前回の行事日：平成15年4月17日

**概要**：素盞鳴社の20年毎に行なわれる遷宮式の際に行なわれる。建替えの間に御旅所に遷されていたご神体が宮へ戻される時に奴踏み行列で先導する。加賀藩の関所役人も随行したことから、百万石を冠称するようになったという。



## 気多神社春季例大祭【にらみ獅子：市・無形】



**開催場所**：高岡市伏木一宮（気多神社） **開催日**：4月18日

**概要**：社務所での奉幣使出立の儀から始まり、神輿渡御の儀、にらみ獅子舞奉納の儀の順で行なわれる。神輿渡御は、依代を乗せた神輿が越中総社跡の伝承地の土壇を3回半右回りし、越中国の安泰を祈るものである。



## どべ祭り(新川神社大祭)



**開催場所**：富山市新庄町（新川神社）

**開催日**：4月19日

**概要**：百年以上前の赤い面と鎧、長刀をつけた「どべ」が神輿を先導する。群集が囃したてると、「どべ」はさも怒ったように人々を追いかける。子供が頭をなでてもらうとできものができないとされる。



## 新湊のボンボコ祭(舟幸祭)【県・無形】



**開催場所**：射水市本町(西宮神社) **開催日**：4月19日(不定期開催、H19年度開催予定)

**概要**：えびす舞の囃子である太鼓の「ボンボコ」という響きが名の由来である。えびす舞が奉納され、漁師に御幣が配られる「社殿神事」と、神輿船が海上を渡御し、神饌などを海に捧げ、えびす舞を舞う「海上神事」及び氏子の家の前または中でえびす舞を舞う「氏子神事」からなる。





あけび

# 明日法福寺の稚児舞【国・無形】







**開催場所**：黒部市宇奈月町明日（法福寺）      **開催日**：4月第3日曜日

**概要**：文禄年間（1592～1595）に始まったという伝承がある。稚児は当日、僧侶たちと観音堂に参拝し、その後、住職が大般若経を転読する中、稚児の縁者が稚児を肩車して舞台まで運ぶ。4人の稚児は、「鉦の舞」、「太平楽」、「臨河の舞」、「万歳楽」及び「千秋楽」を舞う。古風で素朴な舞で、大阪四天王寺の舞楽の流れを伝えているとされる。住職は、舞が終わり、稚児が観音堂に肩車で戻るまで読経する。なお、稚児舞の後には近年復活した「火渡り神事」も行なわれる。



## 宇佐八幡宮春季祭礼



**開催場所**：南砺市福光（宇佐八幡宮、旧福光町町内） **開催日**：4月第3日曜日

**概要**：町内の年男が総出で、江戸時代から伝わる神輿を担いで町中を練り歩く。また、庵屋台3基が巡回し、金沢から伝承された独特の獅子舞も演じられる。神輿は祈願を希望する家の前で勢いよく持ち上げられる。



## 二上射水神社の築山行事【つきやま 県・無形】



**開催場所**：高岡市二上谷内（二上射水神社） **開催日**：4月23日

**概要**：二上射水神社春季祭礼の際に三本杉の下の臨時的祭壇である「築山」に神を迎える。築山の上には天狗・四天王(甲冑)・3本の御幣などが並ぶ。舟形神輿が本殿から築山まで巡行する際の露払いに、行道という古い形式の源太夫(ゲンダイ)獅子が出る。午後4時までには片付けないと大雨が降るとされる。神は常に天にあって、祭礼の際のみ臨時に祭壇を設けて神を迎えるという古代祭祀の形式をよく伝えており、曳山の原型と考えられている。





## 下梨御巡行の儀【市・無形】



**開催場所**：南砺市下梨（地主神社）      **開催日**：4月23日

**概要**：22日の夕刻に神事を行なって氏神様を神輿に遷す。翌23日に獅子舞に先導された神輿をはじめとする長い行列が地区内を渡御する。



## 芦崎えびす祭り



**開催場所**：入善町芦崎（諏訪神社、村内）

**開催日**：4月最終の土・日曜日（G.W.にかかるときは前週の土・日曜日）

**概要**：初日の午後1時頃、屋形船に御神体をのせて村を一巡し、豊漁と航海の安全を祈る。船は張子の鯛や打出の小槌などで飾られ、十数人の若者によって担がれる。二日目の夜11～12時頃に神社の鳥居の前で、火渡りをする。





## 子供曳山祭り



**開催場所**：富山市四方一番町、四方恵比寿町、四方神明町、四方田町、四方東野割町、四方東港町、四方西港町、四方新出町、四方南町、四方江代町（四方神社、神明社、地区内） **開催日**：4月29日・9月23日

**概要**：江戸時代中期に始まり、以前は獅子舞、神輿と6基の曳山が巡行した。しかし、昭和20年に曳山の大半が消失し、戦後に子供曳山として復活した。現在は、12町から出る9基の曳山や子供神輿が、春は四方神社に、秋は神明社に集合し、お祓いの後、各町内を巡行する。



## 石動曳山祭【曳山：市・有形】



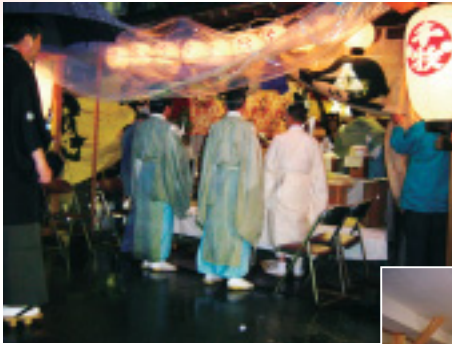
**開催場所**：小矢部市石動（石動市街）

**開催日**：4月29～30日

**概要**：愛宕神社の春季祭礼として江戸時代中期に始まった。県内では新湊（放生津）曳山に次ぐ11基の花山車が掛け声や囃子に合せて町内を巡行し、御旅所（特設）前に揃う。夜は提灯山に姿を変える。昭和46年までは、曳山歌舞伎があったとされる。



みくろまやま  
高岡御車山祭(関野神社春季例大祭)【国・無形、曳山：国・有形】





**開催場所**：高岡市通町、御馬出町、守山町、木舟町、小馬出町、一番町、三番町、源平町、二番町、坂下町（関野神社、山町筋）

**開催日**：5月1日

**概要**：慶長14年（1609）に前田利長が高岡城入城の際に町民に与えた山車が始まりとされる。4月3日の与四兵衛祭、4月30日の山飾りと囃子方試楽、5月1日の御車山揃えと奉曳、神輿渡御と続く。宵祭りは、それぞれの御車山が各町内の山宿前に運ばれ、山宿では人形・幌幕の飾り付けの終了後、神主が入魂式を行なう。その後、囃子を流し、酒や手ぬぐい等を道行く人に振るまう。5月1日は、源太夫（ゲンダイ）獅子を先頭に曳山7基が山町筋等を巡行し、関野神社を参拝する。また、平米町では、昭和13年頃まで御車山と一緒に行列していた母衣が母衣宿に飾られる。





福野の夜高祭・曳山祭(福野神明社春季祭礼)〔夜高祭：県・無形、曳山：市・有形〕







**開催場所**：南砺市福野（福野神明社） **開催日**：5月1～3日

**概要**：夜高祭は、慶安5年（1652）に村人が伊勢神宮の御分霊を行灯で迎えた故事により始まったとされる。大行灯7基、小行灯10基など計24基が町内を練り歩く。田楽（レンガク）と呼ばれる行灯に傘鉾（カサボコ）を立て、その上には山車（ダシ）、傘の前後には釣物（ツリモン）が付けられる。また、行灯の表には極彩の武者絵が、裏には嘉字が描かれる。

幕末に成立した曳山は一時中断していたが、昭和40年代と平成17年に2基ずつ復活した。平成18年には庵屋台1基が復活し、往時の華やかさが戻った。舟形の曳山やからくり人形が見所である。



おおき

## 大木白山社春季例大祭



**開催場所**：高岡市大工中町ほか4町（各町内、母衣宿）

**開催日**：5月2日

**概要**：以前は神輿の渡御に町内の母衣（甲冑）を参加させていたが、現在は神輿の渡御のみとなり、町内の母衣宿において、甲冑などが飾りつけられる。ただし、平成10年には一時的に母衣武者が復活した。



# よいやさ祭り





**開催場所**：南砺市井波（井波八幡宮、旧井波町町内） **開催日**：5月2～3日

**概要**：天保4年（1833）に始まった祭りで、宵祭りには、獅子に先導された御神霊が御旅所の大神輿に移され、神事と獅子舞の奉納がある。本祭りには、獅子舞の先導で6基の大神輿の渡御が町内を行列する。大勢で担がれる大神輿は迫力がある。また、大神輿の前を行くササラ（孟宗竹の先端を細かく割ったもの）、天狗面、傘鉾などが続く古式ゆかしい行列にも趣がある。祭りは、大神輿が神社へ遷幸の際に境内を大きく円を描きながら左回りに回ったのち、御神霊が本殿に収められて終える。また、各町内の屋台は、両日とも夕刻から提灯が灯され巡行する。



## 唐島祭り



**開催場所**：氷見市丸の内、比美町地先（光禅寺、唐島の弁天堂・観音堂）

**開催日**：5月3日

**概要**：正午前、光禅寺で「送行諷経」を終えると、本堂須弥壇から「弁天さま」を遷して僧侶・四町総代・四町太鼓台とともに町内を渡御し、獅子方と唐島に渡る。唐島の弁天堂、観音堂で光禅寺住職が法要を勤め、併せて獅子舞が奉納される。当日は魚取社の例大祭にあたる。



## 八尾曳山神事【曳山：県・有形】



**開催場所**：富山市八尾町東町、西町、上新町、下新町、諏訪町、今町、鏡町  
（八幡社、旧八尾町内）

**開催日**：5月3～4日

**概要**：寛保元年(1741)に始まったとされる。神官の祓いの後、獅子、神輿、曳山の順で出発する。八幡社祭礼で神輿を供奉して、囃子の中を6基の屋台山が曳き回される。曳山は二階建てで、地山の上に大型の人形が据えられ、下層内部に囃子方が入る。夜には提灯山となり巡行する。狭い町角で車体を大きく軋ませ、また、大きく揺らしながら行なわれる急旋回も見所のひとつである。





## 鹿島神社春季祭礼



**開催場所**：朝日町宮崎（宮崎鹿島神社、村内） **開催日**：5月3～4日

**概要**：豊漁と家内安全を祈願する春祭りである。「村祓い」の後、家毎に門付けで獅子舞と町指定無形民俗文化財の稚児舞が演じられる。「村祓い」では、獅子頭を先頭に神主、神輿の行列が地区の東西端で「悪魔祓い」の獅子舞と神主による祝詞の読み上げがある。稚児舞は、小学校2年～4年生が稚児になり、男児が「槍おどり」、女児が「扇おどり」を舞う。



下村加茂神社やんさんま(流鎗馬)【県・無形】





**開催場所**：射水市加茂中部（下村加茂神社） **開催日**：5月4日

**概要**：多くの祭り・行事が伝わる下村加茂神社での五穀豊穡を祈願する祭りで、走馬、神幸式、牛乗式、獅子舞、流鏝馬で構成される。それぞれの儀礼には見所が多いが、氏子が田の神が乗る牛をむりやり座らせる牛乗式は、全国でも珍しいとされる儀式である。また、放たれる矢が魔を除け福を招くとされる流鏝馬も、現在では県内で唯一、伝承されている。



## 赤浜の菖蒲打(ショーブツ)



**開催場所**：滑川市赤浜（地区内） **開催日**：5月4日

**概要**：五穀豊穡と万年豊作が祈念される祭りである。子供達が、菖蒲を入れた藁の棒で各家の玄関で地面を叩きながら「ショーブツ、ショーブツ、五月のショーブツヤーイ」と唱え、駄菓子などをもらいながら家々を回る。家々では、明かりをつけ、窓を開け放ち、地面を叩く音を家の中に響き入れて福にあやかるよう祈念する。





## 城端神明宮祭の曳山行事【国・無形】







**開催場所**：南砺市城端（神明宮、善徳寺） **開催日**：5月4～5日

**概要**：初日に獅子舞、剣鉾、傘鉾に続き神輿が御旅所を出立する。また、善徳寺の門前に集合した6基の庵屋台、曳山も町内を巡行する。この行列は、古い神迎え行列の形式を残している貴重なものである。曳山に先行する庵屋台では、三味線、横笛、太鼓で祇園囃子が披露され、唄われる庵唄は町内それぞれに違いがある。曳山は、夜には提灯山となる。曳山の豪華絢爛さは無論のこと、狭い路地を通るために工夫された屋根の拵え、要所でのUターン、提灯山行列の引き返しなどが見所である。



## コウラウラの祭り(厄神祭)



**開催場所**：氷見市宇波

(厄神社境内と境内への道中)

**開催日**：5月5日

**概要**：小学生の子供組が、「アゲモン」と称する祝意を表したおめでたい作り物を練りながら奉納し、小若連中は境内で獅子舞を奉納する。また、男25歳、女19歳で「厄年の祓い」を受ける。



## 小境のエビス祭り



**開催場所**：氷見市小境〔小境魚取社(えびす堂)〕 **開催日**：5月6日

**概要**：舟山に鎮座するえびす堂の前に敷いたゴザで祭礼が行なわれる。併せて「アゲモン」と称する縁起物の飾りものを肩にのせ、伊勢音頭に合わせてえびす堂まで練って奉納する。その後に獅子舞が各戸を回る。



かわはら

## 川巴良諏訪神社春季例大祭



**開催場所**：高岡市川原上町ほか7町  
(各町内、母衣宿)

**開催日**：5月10日

**概要**：昭和40年代後半頃までは母衣行列が神輿の渡御に参加していた。現在では、御車山祭や大木白山社春季例大祭同様、町内の母衣宿において飾りつけがなされている

### ちょっとコラム 武者が伴う祭り

武者の登場する祭りが、呉西地区に多く継承されている。

けんか山が有名な高岡市伏木神社春季例大祭や高岡市戸出の幌武者祭りなどでは、神輿巡行に子供武者行列が伴う。

高岡御車山祭や川巴良諏訪神社春季例大祭などでは、かつて御車山や神輿に伴い母衣武者が出ていた。今では母衣宿に飾られるだけであるが、復活させようという気運も見受けられる。

射水市下村加茂神社の「やんさんま」の牛乗式では、武者が田の神となって登場する。田の神が乗った牛を組み伏せることで田の神をその地に降ろし、五穀豊穡を願うといわれる。

その他、小矢部市埴生八幡宮宮めぐり神事でも堂めぐりに武者行列が登場するほか、夜高行灯にも武者絵が描かれる。



## 伏木神社春季例大祭(伏木曳山祭)【市・無形】



**開催場所**：高岡市伏木

(伏木神社、伏木6町)

**開催日**：5月15日

**概要**：約190年前に作られた6基の山車が、昼は花山車、夜は360個の提灯をつけた提灯山車に組み立てられ曳き回される。豪華絢爛な花山とともに、午後7時半と10時半に曳山がぶつかり合う「かっちゃ」は見所のひとつである。また、朝から神輿、花傘、母衣武者行列などからなる神幸行列が町を渡御する。







## 岩瀬曳山車祭(岩瀬諏訪神社春季例大祭)



**開催場所**：富山市東岩瀬（諏訪神社、地区内）      **開催日**：5月17～18日

**概要**：山車は、5月16日の宵祭りには自らの町内のみ曳き回される。模様は、判じ絵（語呂合わせの絵解き）となっているのでそれを解読するのもおもしろい。本祭りとウラ祭りの午前は大人が、午後は小学生が曳き、夜は再び大人が曳く。曳き合い（ケンカ）は、17日が諏訪神社前、18日は小学校近くの忠霊塔の前で行なわれる。御旅所から還幸の際の神輿の渡御が平成2年に復活した。



## 布尻・町長のお躑さま(オッカ様)まつり【市・無形】



**開催場所**：富山市布尻・町長  
(布尻神社、町長神社)

**開催日**：5月19日

**概要**：布尻神社と町長神社の御神体の躑(オッカ様)は、両神社間を一年ずつ交代で鎮座する。午後8時頃から御神体を神輿に乗せて笛太鼓で行列して送り出す。迎える方は大火の迎え火を焚き、子供が松明を8の字に振って「オッカ様ござった。豊年じゃ、万作じゃ」と言って迎える。神輿の下をくぐると1年間無病息災で暮らせるとされ、人々が下をくぐる。





## 天神獅子舞祭り



**開催場所**：小矢部市石動（観音寺、石動市街） **開催日**：5月第4土・日曜日

**概要**：観音寺寺宝の天満自在神画像の祭（天満祭）では、32町内から獅子舞が一斉に演じられる。天正13年（1585）の前田利秀の入国を獅子踊りで出迎えたことに由来すると伝承され、近年では小矢部商工会前で獅子舞競演会が開催されている。



## 加積雪嶋神社春季例大祭



**開催場所**：滑川市旧町部（加積雪嶋神社）

**開催日**：5月21日

**概要**：本祭りの前夜、櫛原（いちばら）神社への神迎えにあたり、神輿に祭神を移して戻る際に、各町内の子供らが作った鯛行灯（ヤサコ）が先導する。鯛行灯は、明治時代に子供らが紙を貼った籠にざれ唄を書いて、町中を囃し歩いたことが始まりとされる。



## 山王まつり(日枝神社春季例大祭)



**開催場所**：富山市山王町(日枝神社境内、周辺)      **開催日**：6月1～2日

**概要**：町内を終日かけて、獅子舞が練り歩き、神輿が渡御する。家内安全と五穀豊穡を祈って食べる朔日饅頭(ついたちまんじゅう)が、早朝から境内で販売される。



## 国泰寺開山忌



**開催場所**：高岡市太田(国泰寺)      **開催日**：6月2～3日

**概要**：開山の祖慈雲妙意の命日である3日に法要が営まれる。県内外から虚無僧が集まり、黒衣に天蓋姿で尺八を吹き、読経する僧侶とともに本堂から開山堂まで行列する珍しい祭礼である。





## 下村加茂神社の御田植祭【県・無形】



**開催場所**：射水市加茂中部（下村加茂神社）

**開催日**：6月初卯の日

**概要**：稲の育成と豊穣を祈る行事で、境内に砂で作られた広さ2間の「御田」を氏子代表がエブリでならした後、宮司が餅米の苗を後に下がりながら植える。氏子が真菰（まこも）と八寸紙で作った「大男」と「真菰の神様」がまつられ、「大男」は最後に、宮司が後ろ向きに大きく放り投げる。これを拾うと豊作になるといわれ、観客が争って拾う。





## 津沢夜高あんどん祭り



**開催場所**：小矢部市津沢（津沢市街） **開催日**：6月第1金・土曜日

**概要**：夜高は、田祭りの「豆腐行灯(とっぺあんどん)」が大型化したものと考えられる。屋台に張子の作り物をし、高さ7m、長さ12mの夜高行灯を数十人で担ぎ町内を練る。双方の行灯が夜半に激しくぶつかり合う場面が見所である。



## 庄川観光祭(夜高)



**開催場所**：砺波市庄川町青島・金屋（庄川町市街地中央線）

**開催日**：6月第1土・日曜日

**概要**：もとは、4人で担ぐ「6尺行灯」と半紙一枚分の大きさの「豆腐行灯（とつぺあんどん）」を担いで練り歩いたものであったが、大型化して現在の姿となった。昭和28年以降、庄川観光祭で大小あわせて夜高行灯25基程が町を練り歩き、「あわせ」とよばれるぶつけ合いが行なわれる。





## 砺波夜高祭り



**開催場所**：砺波市出町の町部各町（出町神明宮、市街地）

**開催日**：6月第2金・土曜日

**概要**：もとは、子供らが夜高行灯を掲げて練り歩いたものが明治以降に大型化したものである。行灯の表に武者絵、裏に嘉字が大きく描かれる。山車と吊物のデコレーションは彩色して中に灯が灯され、出町神明宮に参詣した後、町内を曳き回される。二日目には「突き合わせ」とよばれるぶつけ合いがある。





## いち はら 櫛原神社春季例大祭



**開催場所**：滑川市旧町部（櫛原神社） **開催日**：6月16日

**概要**：祭礼時になると、各家軒先に紙花や短冊飾りを竹枝につけた祭礼花を差し下げる。この他、提灯、幕、すだれを氏子が各自で軒先に飾り付け、神輿渡御の沿道を飾る。宵祭りでは、鯛行灯（やさこ）や高張提灯の行列も出る。

### ちょっとコラム 鯛行灯（やさこ）



左の写真は、滑川市で毎年7月中旬に開催されている「ふるさと竜宮まつり」に登場した鯛行灯である。各団体が様々な工夫を凝らした鯛行灯を作り練り歩く。

この鯛行灯は、もともとは、加積雪嶋神社や櫛原神社の大例祭にのみ出していた。子供たちが神輿を先導していたものが、大人の鯛行灯も加わり、観光行事のひとつとなった。



## 床鍋の虫送り



**開催場所**：氷見市床鍋（地区内から旧床鍋小学校跡地までの道筋）

**開催日**：6月中旬

**概要**：氷見市床鍋地区では、大松明の上部に幣串を立て、神事後、太鼓を叩き、囃子ながら床鍋村内を曳き回す。村はずれで松明に火をつけ、旧床鍋小学校グラウンドまで運ぶと、大松明を立てて完全に燃やしてしまう。最近は床鍋地区だけでなく、速川小学校の児童が参加して伝承に努めている。



## こ いん 御印祭



**開催場所**：高岡市金屋本町（金屋本町）

**開催日**：6月19～20日

**概要**：慶長12年（1611）に前田利長が鋳物師7名を招き、宅地と作業場を与えた。その後も、加賀藩主の厚い保護の下で町が発展してきたことへの感謝の意を表して、利長の命日に祭りが行なわれる。前夜祭の6月19日に、高岡鋳物の作業唄として歌い継がれてきた『弥栄節』（やがえふぶし）の町流しが行なわれる。



## 愛本姫社まつり

**開催場所**：黒部市宇奈月町下立  
（愛本姫社）

**開催日**：6月21日

**概要**：神殿の前で祝詞があげられ、その後、神殿の奥に掛かったお光（淵の主に嫁ぎ蛇体と化した娘）の絵像を一般公開する。祭礼に先立ち「ちまき」が作られ、地区の各戸へ配布される。近年は、仮装行列、愛本ちまき踊りなどのイベントも行なわれる。





## 戸出七夕まつり



**開催場所**：高岡市戸出（戸出市街地）

**開催日**：7月3～7日

**概要**：各戸で行なわれていた七夕が昭和38年以降にイベント化されたものである。商店街を中心に、大小たくさんの七夕が飾られ、児童クラブの行灯パレード、仮装行列、民謡町流しなどが同時に行なわれる。



## 城端南町の七夕祭

**開催場所**：南砺市城端南町  
（町内）

**開催日**：7月7日晚

**概要**：獅子舞で使用する太鼓の台にたくさんの提灯を吊り下げた太い竹を1本くりつけ、子供達が引っ張って町内を練り歩く。その他、提灯をつけた細竹を持って周囲を練り歩く子供もいる。







## 西ノ番奉納相撲



**開催場所**：富山市西番（西番神社） **開催日**：7月8日

**概要**：常願寺川の治水祈願として明治期に始められたとされる。神社での祈願の後、相撲の奉納が行なわれる。子供の部と成年の部がある。



## 円隆寺祇園祭(さんさい踊)【市・無形】



**開催場所**：富山市梅沢町(円隆寺)

**開催日**：7月14～15日

**概要**：寛永16年(1639)の前田利次の富山城入城以降に始まったとされる盆踊である。女兒の健やかな成長を願って輪踊りが行なわれる。



## 祇園祭り(曳山)



**開催場所**：氷見市街地（御座町日吉神社と中町日宮神社、各氏子中）

**開催日**：7月13～15日

**概要**：南町は7月13～15日に、北町は13～14日にそれぞれ日吉神社、日宮神社の両相殿の御霊代を神輿に移して町内を渡御する。南十一町からは5基の曳山と11輛の太鼓台が神輿に供奉する。曳山は、13日は提灯山で、14日は花山となる。北六町からは6輛の太鼓台が神輿に供奉して、氏子町内を巡行する。



## えびす祭り



**開催場所**：富山市四方（えびす神社、四方浜） **開催日**：7月19日

**概要**：えびす神社の祭神を船にのせ、それぞれの船の大漁旗をたなびかせ、四方浜港湾を一周し、海上安全、大漁が祈願される。



## おおばん 大磐祭



**開催場所**：入善町新屋（住吉神社境内） **開催日**：7月24日

**概要**：上杉勢に町が焼かれた際、宮の一对の神石を池に投げ込むと鎮火した。その後、その神石を引き上げ、力だめしの石にしたと伝承される。毎年7月24日の夏祭りの晩に、磐持ちと盆踊が繰り広げられる。





## 荒木のねつおくり祭【市・無形】



**開催場所**：南砺市荒木（荒木地区内） **開催日**：7月の土用の三番の日

**概要**：いもち病の防除を祈念して、毎年一年で一番暑い土用の三番の日に、子供達が「オクルワイ オクルワイ、ネツオクルワイ」と太鼓に合わせて唄いながら、五色の短冊で飾った笹竹で稲田を払い回る。「じじ、ばば」と呼ばれるわら人形を乗せた田の神舟も担がれて回る。地区をひとまわりすると、その舟を福吉橋から小矢部川へ投げ込んで祭りは終わる。





あし くら じ  
芦 嶺 寺 雄 山 神 社 ・ 神 輿 ね り ( 神 輿 渡 御 ) 町 ・ 無 形



**開催場所**：立山町芦嶺寺（芦嶺雄山神社） **開催日**：7月25日直前の土・日曜日

**概要**：初日は、神輿が大通りを渡御する。二日目は大宮・若宮の神輿が大宮参道の分かれ口で出会い、挨拶を2回行なう。祈願殿までの往路は若宮神輿が、祭礼の後の帰路は大宮神輿が先行する。分かれ口で告別の挨拶を2回行ない、直後、時の声をあげて各宮に駆け込んで霊代を納めて祭りは終了する。



## 水神社祭礼(水橋橋まつり)



**開催場所**：富山市水橋（水橋水神社、東西橋周辺） **開催日**：7月第3土・日曜日  
**概要**：明治2年に完成した立山橋には、沿岸の神社の境内木が使用されたとされる。水神社を祀り、感謝と加護を願い「火流し」が行なわれる。現在は、花火大会や民謡町流しなども行なわれている。



## 盤持ち大会



**開催場所**：南砺市城端（善徳寺境内）  
**開催日**：7月虫干し法会中の日曜日  
**概要**：米俵2俵を結わえた盤を持ち上げ、力を競う。いくつかの重さのものが用意され、参加者は軽いものから重いものへと順に挑戦する。大関を3回務めると横綱になるという番付もある。



## 滑川のネブタ流し【国・無形】



**開催場所**：滑川市中川原、常盤町1～3区（和田の浜）

**開催日**：7月31日

**概要**：青竹、わら、籾むしろ)でつくった大松明の胴体に、なすやきゅうりなどを刺し、町内を練り歩く。その後、和田の浜に集められた大松明は、夕方、先端部に点火して沖に流される。この時、大松明に眠気や穢れを託す。その様子は、夕暮れ時の海辺で幻想的な雰囲気醸し出す。有名な青森県のネブタ・ネブタと同類の祭りで、現在知られているネブタ行事の南限とされる貴重なものである。





## 中陣地区のニブ流し【県・無形】



**開催場所**：黒部市中陣  
（地区内の前川）

**開催日**：7月31日

**概要**：夕方、子供達がてんでに舟と麦わらで作った舟を両肩にのせて、列を組んで歌を歌いながら地区内を練り歩く。最後に前川の上流に入り、ロウソクを灯した舟を浮かべて流す。滑川のネブタ流しと同様に、眠気の精霊と穢れなどを作り物の舟に乗せて払う祭りである。また、同日、ニブ会館前で市指定無形民俗文化財の布施谷節（ふせたんぶし）が踊られる。

### ちょっとコラム 七夕について

七夕は、旧暦では7月7日、新暦では月遅れの8月7日に行なわれる行事である。奈良時代頃に中国から伝わり、星祭として盛んに行なわれていた。

一般的には短冊に願い事を書いて笹竹に飾られる。しかし、祭りの本質は水神を迎える祭礼にある。そのため、収穫の祭り、収穫予祝の祭り、盆行事の開始の祭りとして行なわれてきた。ネブタ流しや七夕流しは、身についたケガレを物に託して水に流す、いわゆる禊ぎ（みそぎ）として行なわれるものである。





## 高岡七夕祭り



**開催場所**：高岡市中心部      **開催日**：8月1～7日

**概要**：江戸時代から各家で行なわれていた行事が、昭和以降に盛大となり、日本海側でも有数の規模となったと思われる。願いを天に届けるため書かれた短冊が飾り付けられた笹七夕を川に流すのが特徴だったが、平成18年度から中止されている。



## 上村木七夕祭り



**開催場所**：魚津市上村木（上村木地区）      **開催日**：8月6～7日

**概要**：大正2年に子供達によって始められたとされる。現在は、天狗、赤鬼、白狐、雑種などと矢形船が出て地区内を練り歩く。



## 尾山の七夕流し【県・無形】



**開催場所：**黒部市尾山(尾山地区の泉川)

**開催日：**8月7日

**概要：**紙で作った姉様人形、杉葉舟や行灯などを川に流す祭りである。日中には最も大きな姉様人形が地区内を引き回され、その後、子供達で作った姉様人形が自宅の座敷に並べられる。夜に姉様人形や杉葉舟などを、両岸に七夕が並ぶ泉川に流す。



## 魚津のタテモン行事(たてもん祭り)【国・無形、県・有形】



**開催場所**：魚津市諏訪町(諏訪神社)

**開催日**：8月第1金・土曜日

**概要**：海難防災や豊漁の祈願などのために、氏子7町から提灯や行灯で満帆の三角形に飾り付けられた大型の行灯(タテモン)が、浜や神社の神前で引き回される。神を迎える銚子の姿、あるいは、秋田の竿灯(かんとう)や京都の風流灯籠も想起させる幻想的かつ勇壮な祭りである。





## せり込み蝶六【市・無形】



**開催場所**：魚津市（中央通り） **開催日**：8月第1金曜日に続く日曜日

**概要**：県東部の盆踊りのひとつで、「はねそ」、「松坂」とともに歌い踊られる。毎年、「魚津まつり」の際に町流しが行なわれる。起源は、浄土真宗の普教のために念仏踊りが唄い踊り継がれたとも、この地で倒れた主人を慰めるため家臣が唄ったものに振付けがついたものともされる。



## 吉原の七夕まつり

**開催場所**：入善町吉原（吉原地区内）

**開催日**：8月7日

**概要**：杉の葉を隙間なく挿して帆柱に帆と網を張り、赤提灯が数十個ついた木の舟が作られる。また、なすやかぼちゃ、きゅうりを竹串に刺して舟に刺す。子供達は、「年に一度の七夕よ...」と歌い村内を回る。少子化の影響で一時期絶えたが平成13年に復活された。





## 米道踊り【町・無形】



**開催場所**：立山町米道（善入寺境内） **開催日**：8月15日

**概要**：永禄年間（1568～1569）に落城した池田城主の家臣が、米道の村人に教えたのが始まりとされる。4曲の唄と8種類の踊りの形態があり、男性と女性による踊りがある。花笠、扇などを手に踊るが、男性は化粧まわしを着ける姿に特徴がある。



## 五ヶ種チョンガレ踊り【市・無形】



**開催場所**：砺波市庄川町五ヶ（五ヶ神明社） **開催日**：8月下旬日曜日

**概要**：種初（たねはつ）の発祥として知られていた五ヶ地区で、稲穂を買いに来る種替（たねか）さんで賑わう情景をチョンガレに詠みこんだもので、盆踊りとして唄い、踊り継がれている。長らく中絶していたが、近年復活され保存会により継承されている。



## ゑびす祭り



**開催場所**：黒部市生地（生地の浜、沖） **開催日**：8月19～20日

**概要**：19日には大漁旗を飾り立てた漁船約20隻が満艦飾（まんがんかざり）の船体にゑびすを乗せて海岸を巡回する。20日には「しばんば踊」（市・無形）の町流しも行なわれる。20年程前からは花火大会などのイベントも行なわれている。



## 黒河夜高祭【市・無形】



**開催場所**：射水市黒河（黒河地区） **開催日**：8月23日

**概要**：戦前まで五穀豊穡を祈願して行なわれていた小型の行灯による夜高が、昭和50年に子供祭りとして復活された。子供達による6基の手作り夜高行灯が、地区内を練り歩く。また、提灯で飾られた山車も曳き回される。



## 熊野神社の稚児舞【国・無形】





**開催場所**：富山市婦中町中名（熊野神社） **開催日**：8月25日

**概要**：大稚児2名と小稚児2名による7つの舞が拝殿前の仮設舞台で奉納される。稚児舞の前に獅子舞が舞われ、稚児はケガレのないよう大人の肩車で神社に入る。舞は「鉦の舞」、「古賀の舞」、「林歌の舞」、「蛭子(ひるこ)の舞」、「小納曽利(しょうなそり)の舞」、「大納曽利(だいなそり)の舞」、「陪廬(ばいろ)の舞」が奉納される。





## 吉原の恵比寿祭り



**開催場所**：入善町吉原（吉原神社と村内） **開催日**：8月最終の金・土曜日

**概要**：北前船を模した屋形船を若者が担いで、村内を回る。船の中央の屋形の前面には朱塗りの鳥居、船縁には10個の提灯がつるされ、船の周囲は波しぶきを意味する幔幕が張りめぐらされ、帆が高く張られ、舳に「恵比寿丸」の幟が立てられる。最終日に神社に屋形船が入る際に、鳥居前で火渡りが行なわれる。



## おわら風の盆



**開催場所**：富山市八尾町（八尾町地内）

**開催日**：9月1～3日

**概要**：元禄年間（1688～1703）から3月16日を中日とした3日間に踊りの町練りが行なわれていたものが、陰暦7月の盂蘭盆（うらぼん）の行事となり、明治時代に立春から数えて二百十日の風被害の無事と豊年満作を祈る行事となった。現在の踊りは、大正2年に振り付けられたものを、昭和4年に整備し、さらに町民によって整えられていったものである。



## 神賑わい



**開催場所**：砺波市庄川町庄（庄川弁財天）

**開催日**：33年に一度（最近は平成2年8月3～5日に開催）

**概要**：弁財天社の33年に一度の御開帳の際に行なわれる。行列は総勢100人あまりで、全長は200mにおよぶ。祭神の仮装、捧持した山海の珍味、大神楽、捧持した酒樽と餅俵、獅子の順に行列する。列は弁財天社正面でお祓いの後、身振り手振りで面白く記帳場まで繰り込み、供物を奉納し、獅子舞が演じられる。その後、俵の紅白の小餅やサンダラ餅が櫓の上から撒かれる。



## いっしんこう 一心講おどり【市・無形】



**開催場所**：南砺市城端（善徳寺境内） **開催日**：9月2日

**概要**：境内に寺紋の入った提灯を張り巡らし、仮装の者も入り混じる踊り手が大きな輪を作り、チョンガレを踊る。チョンガレ語りは寺の法被を着て、踊りの輪の中に立つ。明治期以前から伝承されているといわれる。



## 願念坊踊【市・無形】



**開催場所**：小矢部市綾子（太田神社） **開催日**：寺院の法会や竣工式、9月3日

**概要**：編笠で黒衣姿の「願念坊」と呼ばれる道化役が進行役となる。番傘に似た二重の蛇の目の縁に赤い木綿などが縫い付けられたダシが披露される。江戸時代に願人坊主と呼ばれる門付け芸人が唄い踊った芸能が当地にも伝承されたとも、信長の石山本願寺攻めの際の和解を祝い門信徒が法衣のまま乱舞したことによるとも伝えられる。





## 下村加茂神社の稚児舞【国・無形】







**開催場所**：射水市加茂中部（下村加茂神社） **開催日**：9月4日

**概要**：京都賀茂御祖神社からの伝来とされる。顔と手におしろいを塗り、額の中央と両頬に紅をつけた男児4人(大稚児2人、小稚児2人)が大人の肩車で村内を巡行したのち神社に入る。太鼓1人、笛5人の囃子に合わせて「鉾の舞」、「林歌の舞」、「小奈曾利(しょうなそり)」、「古賀の舞」、「天の舞」、「胡蝶(こちょう)の舞」、「大奈曾利(だいなそり)」、「蛭子(ひるこ)の舞」、「陪廬(ばいろ)」の9曲を舞う。稚児の動作などがすべて3遍ずつ行なうように編曲されていること、古形式の装束が伝承されていることなどが特徴である。



## 草島の奴ぶり



**開催場所**：富山市草島（草島神明社） **開催日**：9月6日

**概要**：秋祭りでお祓いの後、要請のあった家々などを回る。奴は、参勤交代の行列を模しており、音頭に合わせて所作する。祭りの際以外にも、慶事などでも行なわれる。



## 熊野神社秋季例大祭(二口熊野社・火渡り神事)



**開催場所**：射水市二口（熊野神社） **開催日**：9月8日

**概要**：祭りの最後の火渡り神事がよく知られている。火によってケガレを焼き払うという不動明王信仰に基づく神仏混淆（しんぶつこんこう）によるもの。獅子や神輿が藁を燃やした火の上を駆け抜ける。



## 櫛田神社秋季例大祭



**開催場所**：射水市串田（櫛田神社） **開催日**：9月10日

**概要**：白装束に烏帽子（えぼし）姿の氏子に守られた神輿が、獅子と猿田彦（さるたひこ）神を露払いに地区を渡御する。神社に戻る際、参道で燃やした火の上を神輿と獅子がともに走り抜ける。



## 源氏太鼓【市・無形】



**開催場所**：小矢部市下後壱（下後壱神明宮） **開催日**：9月10日

**概要**：大きな太鼓と酒樽（現在は小さな太鼓）を笛に合せ、身振りおもしろくたたき踊る。俱利伽羅（くりから）源平合戦の時、源氏軍についた村人たちが勝利を祝って打ち鳴らした勝鬨（かちどき）太鼓だとされる。現在は、氏神に奉納し、五穀豊穡、順風慈雨が祈られる。



## 城端むぎや祭



**開催場所**：南砺市城端（善徳寺他）

**開催日**：敬老の日（9月第3月曜）直前の土・日曜日

**概要**：大正時代末期に町内の民謡愛好家により始められ、徐々に現在の様式になっていった。「城端麦屋節」、「古代神」、「四ツ竹節」、「こきりこ節」が傳承されている。昭和26年以降は、善徳寺の境内で踊られるようになった。



## 護国八幡宮宮めぐりの神事【市・無形】



**開催場所**：小矢部市埴生（護国八幡宮） **開催日**：9月15日直前の日曜日

**概要**：埴生八幡宮の源平合戦勝利のお礼参りとして江戸時代に始まったとされる。鎧に身を固めた武者姿の若者らが隊列を組み、拝殿外側の広縁を7回半巡り、最後に弓や刀剣をかざし「ウォー、ウォー」と大歓声をあげて本殿へ駆け込む奇祭である。





## 神明神社秋季祭礼



**開催場所**：上市町神明町（神明神社） **開催日**：9月21日

**概要**：前日（ヨイマツリ）には神輿が旧町部を1日かけて渡御する。以前は、山車などが出て大規模に行なわれていたが、現在は神輿のみが練り回る。古い山車と神輿は、いずれも町指定文化財となっている。なお、祭礼の際には境内にある保管庫の扉を開放して一般に公開されている。



## こきりこ祭り



**開催場所**：南砺市上梨（白山宮） **開催日**：9月23～24日

**概要**：白山宮で中秋の頃に奉納されていた田楽踊りが起源とされている。現在では、白山宮秋季祭礼の際に、五穀豊穡を祈念して、「奉納踊」、「放下僧ささら踊」、「筑子盆踊」の舞と唄が奉納されている。



## 五箇山麦屋まつり



**開催場所**：南砺市下梨（地主神社） **開催日**：9月25～26日

**概要**：地主神社の秋季祭礼に開催される。麦屋節の元唄と考えられる長麦屋、速いテンポの早麦屋、古代神が唄われる。現在の直線的な踊りは、明治時代後期に振り付けられた。紋服、袴、白タスキの装束に腰刀と菅笠の出で立ちで舞われる。



## 海老江曳山まつり(海老江加茂社の秋祭り)【市・有形】





**開催場所**：射水市海老江（海老江加茂社、西町・中町・東町）

**開催日**：9月22～23日

**概要**：宵祭りは、西町、中町、東町から子供達が担ぐ樽神輿がでて家々を訪れる。本祭りは、3基の曳山が、昼は花山で夜は提灯山となり町内を回る。この曳山は、構造、形式や囃子の調子が放生津八幡宮の曳山と類似点が多く、影響を受けていることが分かる。また、江戸時代に神のお告げで鯨を捕った船頭が奉納したとされる鯨神輿が、曳山に供奉する。



## つくりもんまつり



**開催場所**：高岡市福岡町福岡（旧町内一円） **開催日**：9月23～24日

**概要**：お盆から8月末までに行なわれていた地藏祭りが始まりとされる。地藏様に供えられた野菜で素朴な造詣を楽しんでいたものが近年観光用となり、野菜・果物・草花・貝殻等で風景や人物が造作される。





# 築山・新湊曳山まつり(放生津八幡宮の秋季例大祭)

【築山：県・無形、曳山：市・有形】





**開催場所**：射水市八幡町（放生津八幡宮） **開催日**：9月30日～10月2日

**概要**：9月30日の宵祭りでは、夕方、八幡宮の霊松殿と拝殿の間で別火を焚いて袂い清め、海上から迎えた御祖神や代々の祖達神を御舟代に降ろし、松明の先導で東境内の老松に遷す。翌日、獅子の先導で神の御魂を乗せた神輿が渡御する。総数13基と県内最多の曳山は神輿に供奉し、昼は花山、夜は提灯山となる。豪華な山車自体も見事だが、狭い街角の「門まわし」も見所である。10月2日は築山にオンパバと四天王・客人（まるうど）が据えられて神事が行なわれ、夕方までには片付けられる。また、社殿では地名の由来となったとされる放生会も行なわれる。



## 愛本新用水天満宮松明祭【市・無形】



**開催場所**：黒部市宇奈月町愛本新（愛本新天満宮） **開催日**：10月5日

**概要**：享和2年（1802）に用水の完成を祝い村人が松明をかざして水を迎えに行ったことが起源とされる。青竹で作った高さ5m、直径1m、重さ約450kgの松明2本を、男衆が笛や太鼓に合わせて交互に担いで回る。子供達も小松明を持って後に続く。





## 墓ノ木タイマツ祭り【町・無形】



**開催場所**：入善町墓ノ木

（墓ノ木神明社 墓ノ木水神社）

**開催日**：10月13日

**概要**：250年程前の黒部川の大洪水で堤防が崩れた際、墓ノ木神明社前で作られた松明の灯りで夜通し作業が行なわれたことが起源とされる。水神様へ水の感謝と豊作を祈り、大小の松明を神明社から上流の水神社まで運ぶ。2本の大松明は、重さが約450kgもあり、笛・太鼓・米吊り唄に合わせて運ばれる。子供達も小松明を持って練り歩く。





## 住吉社秋季祭礼【獅子舞・天狗舞：町・無形】



**開催場所**：入善町新屋（住吉社）

**開催日**：10月14・15日に近い土・日曜日（御神幸は2年に一度）

**概要**：降神の神事後、境内で獅子舞が奉納され、神輿の先頭で渡御する。「神宿」の家では、神輿が座敷にあがると、家の前庭で悪魔払いの「獅子起こし」の舞が始まる。獅子舞は、伊勢神楽の流れを汲み、下新川型獅子舞である。また、神輿は神社に帰ってくる際、鳥居前で火渡りをする。



## 大門神社・枇杷首神社秋季礼祭【市・無形】



**開催場所**：射水市大門（西町・中町・田町）・枇杷首（大門神社・枇杷首神社）

**開催日**：10月第2日曜日

**概要**：現在は4基であるが、かつては高岡市蓮花寺の曳山も一緒に巡行していた。伝承では、高岡御車山を模倣して明治初年に4基同時に造られたという。順路は、枇杷首、西町、中町、田町の順で、夕方には提灯山となる。



## 浦山のナガ(ナガと獅子)



**開催場所**：黒部市宇奈月町浦山（鶏野神社）

**開催日**：10月16～17日

**概要**：一人一頭の獅子は、赤漆塗・白毛・宝珠をつけた緑地に毛巻模様の銅巻で、「ナガ」の天狗面は、長い黒の頭毛で、長い黒顎ヒゲ行道面風である。獅子舞とともに神幸の先頭を行道する。子供が泣き止まないと「ナガに噛まずぞ」と脅す。



## 柿沢神社秋季祭礼



**開催場所**：上市町柿沢（柿沢神社） **開催日**：10月20日

**概要**：勇壮な暴れ神輿が午前9時から深夜までかけて各家々を渡御し、最後は柿沢神社の境内で燃え盛る火の中を走り抜ける火渡りの神事が行なわれる。



## 幌武者祭り



**開催場所**：高岡市戸出（戸出野神社、戸出9町）

**開催日**：10月第2土曜日

**概要**：現在の形態は元禄10年（1697）頃に、京都の八坂神社の渡御を模して始められたとされる。神社での神事後、先導、獅子、渡小旗、幌武者・幌弓・鉄砲持、右大臣・左大臣、神主・笛・太鼓など、御神灯、神輿、氏子総代、齋主の順で行列が組まれる。大勢による行列であり、たいへん賑やかとなる。







## いくじ 生地たいまつ祭り



**開催場所**：黒部市生地（新治神社、神明社） **開催日**：10月26～27日

**概要**：約550年の伝統を持つ海の安全を祈願する奇祭で、神明社からえびすと大黒をのせた2台の屋形船と神輿が出発する。時折、餅や菓子をまきながら子供達の囃子に合わせて新治神社まで町内を巡行する。新治神社では、高さ2～3mの数百本の松明に点火され、その中を厄年の男衆が神輿を担いで渡る。



## 米吊り奉納



**開催場所：**朝日町山崎  
(吉祥院の境内及び村内)

**開催日：**7年に一度の10月に開催  
(最近は平成15年)

**概要：**吉祥院の菩薩像の御開帳に行なわれる。3人1組が米俵や酒樽などの入った長持を吊る「吊り方衆」となり、露払いの道化役である「願念坊主」数人と公民館前を出発する。俵上の「音頭取り」の米吊り唄に合わせ、「ドッコイ、ドッコイ」の掛け声とともに3歩進んで2歩下がる独特の足運びで練り歩く。最後は寺の前の階段を一気に登り、吊り物を奉納する。



まえ だち しゃ だん  
雄山神社前立社壇の稚児舞【町・無形】



**開催場所**：立山町岩峯寺  
（雄山神社前立社壇）

**開催日**：11月3日

**概要**：稚児舞に先行して鉦立の行事があり、9時30分頃に法螺（ほら）貝の先導で若衆の肩車により宿から拝殿まで稚児が行列する。大稚児2人、小稚児2人、法螺貝2人、太鼓1人、笛6人から成り、「道中楽」、「鉦の舞」、「小稚児の舞」、「大稚児の舞」を舞う。稚児舞は道中楽から始まり、稚児が拝殿に向かい、法螺貝が吹き鳴ると、一斉に錫杖が振られる。終了後、再び宿まで行列する。











まつり  
潤建のえびす様渡し【市・無形】



**開催場所**：射水市放生津・新湊地区（西宮神社、釣方潤建の頭屋）

**開催日**：11月第3土曜日

**概要**：元禄15年（1703）、加賀藩主に金鯛を献上した放生津の釣方漁師は、釣り漁の実績を誉められ、領国海域での釣り漁の特権を潤建に与えられた。この時下付された恵比須絵像、黄金の鮑大盃、漁場絵図を順次年番に潤建の頭屋間で渡し、海上の安全と大漁が祈願される。



## 利賀はつ うまの初午行事【県・無形】



**開催場所**：南砺市利賀村上村（地区内） **開催日** 1月中旬

**概要**：子供達が家々を回って家内安全と豊作を祈願する。各家の大黒柱前で子供神主が祝詞を奏上したあと、歌声と太鼓に合わせて藁で仕立てた馬の頭を持って躍り、その後、俵ころがし役が面白可笑しく俵を引いたり担いだりする。最後に「福の神」などと書かれた御札を投げ入れ終了する。子供だけで祭りが執り行なわれる。



さい  
塞の神まつり【町・無形】



**開催場所**：入善町邑町（塞の神の碑の前）

**開催日**：1月15日に近い土曜日または日曜日

**概要**：子供達が地区の家々を回り、「塞の神じゃ、大神じゃ」と唄いながら勸進をする。年長者は男神、女神を刻んだ木偶（でく）人形を胸元に捧げて先頭に立つ。竹が円錐状に組まれ、家々から集められた注連飾りや書初めなどがその中で焼かれる。



## 小川寺地区の祭礼(春・秋の祭り、火祭り)【県・無形】



**開催場所：**魚津市小川寺（白山社、千光寺観音堂）

**開催日：**1月第4日曜日、3月12日、10月12日

**概要：**火祭り、春祭り、秋祭りに、白山社を出発した神輿の御旅行列が観音堂を7回半巡る。行列を先導する二人立ちの獅子は、行道獅子の古態を残している。獅子と同時に赤い醜面と三角帽子のパバメン（2人）、天狗、女装に醜面に丸まげのかつらを着けたアネマが滑稽な所作で同行する。神仏習合・山岳信仰の遺風を伝え、原始的な獅子舞の様相を伝えるものとして貴重である。





## やらやら・あがりもん



**開催場所**：県内各地（寺社仏閣） **開催日**：寺院の法会や竣工式など慶事

**概要**：神社や仏閣の慶事に出し物として奉納される。米俵、酒樽や餅俵などの行列が「吊り物の唄」に合わせて独特の歩調で練り歩かれる。富山県では各地に見られるが、全国的にはほとんど例を見ない芸能である。



夏

立夏

五月

- 5 コウラウラの祭り（氷見）
- 6 小境のエビス祭り（氷見）
- 10 川巴良諏訪神社春季例大祭（高岡）
- 15 伏木神社春季例大祭（高岡）
- 17・18 岩瀬曳山車祭（富山）
- 19 布尻・町長のお繰さままつり（富山）

小満

六月

- 21 加積雪嶋神社春季例大祭（滑川）
- 第4土日曜 天神獅子舞祭り（小矢部）

芒種

- 1・2 山王まつり（富山）
- 2・3 国泰寺開山忌（高岡）
- 第1金土曜 津沢夜高あんどん祭り（小矢部）
- 第1土日曜 庄川観光祭（夜高）（砺波）
- 第2金土曜 砺波夜高祭り（砺波）
- 初卯の日 下村加茂神社の御田植祭（射水）

夏至

七月

- 中旬 床鍋の虫送り（氷見）
- 16 櫛原神社春季例大祭（滑川）

小暑

- 19・20 御印祭（高岡）
- 21 愛本姫社まつり（黒部）
- 3 } 7 戸出七夕まつり（高岡）
- 7 城端南町の七夕祭（南砺）
- 8 西ノ番奉納相撲（富山）
- 13 } 15 祇園祭り（曳山祭）（氷見）
- 14・15 巴隆寺祇園祭（富山）

大暑

- 土用の三番の日 荒木のねつおくり祭（南砺）
- 19 えびす祭（富山）
- 第3土日曜 水神社祭礼（富山）
- 24 大鷲祭（入善）
- 25日直前の土日曜 芦峯寺雄山神社・神輿ねり（立山）
- 下旬の日曜 盤持ち大会（南砺）
- 31 滑川のネブタ流し（滑川）
- 31 中陣地区の二ツ流し（黒部）

秋

立秋

処暑

白露

秋分

八月

九月

十月

1 } 7 高岡七夕祭り(高岡)  
 6 : 7 上村木七夕祭り(魚津)  
 7 吉原の七夕まつり(入善)  
 7 尾山の七夕流し(黒部)  
 第1金土曜 魚津のタテモン行事(魚津)  
 第1金曜に続く日曜 せり込み蝶六(魚津)

15 米道踊り(立山)  
 19・20 系びす祭り(黒部)  
 23 黒河夜高祭(射水)  
 25 熊野神社の稚児舞(富山)  
 下旬の金土曜 吉原の恵比寿祭り(入善)  
 下旬の日曜 五ヶ種子ヨంగాし踊り(砺波)

1 } 3 おわら風の盆(富山)  
 2 一心講おどり(南砺)  
 3 願念坊踊(小矢部市)  
 4 下村加茂神社の稚児舞(射水)  
 6 草島の奴ぶり(富山)  
 8 熊野神社秋季例大祭(射水)  
 10 櫛田神社秋季例大祭(射水)  
 10 源氏太鼓(小矢部)  
 15日直前の日曜 護国八幡宮宮めぐりの神事(小矢部)  
 敬老の日直前の土日曜 城端むぎや祭(南砺)

21 神明神社秋季祭礼(上市)  
 22・23 海老江曳山まつり(射水)  
 23 子供曳山祭り(富山)  
 23・24 つくりもんまつり(高岡)  
 23・24 こきりこ祭り(南砺)  
 25・26 五箇山養屋まつり(南砺)  
 30 } 2 築山・新湊曳山まつり(射水)  
 愛本新用水天満宮松明祭(黒部)



秋

冬

寒露  
霜降  
立冬  
小雪  
大雪  
冬至  
(元日)  
小寒  
大寒

十月  
十一月  
十二月  
一月

12 小川寺地区の祭礼(秋祭り)(魚津)  
13 墓ノ木タイムツ祭り(入善)  
14・15日に近い土曜 住吉社秋季祭礼(入善)  
15日前後の日曜 境神社秋季祭礼(朝日)  
第2土曜 幌武者祭り(高岡)  
第2日曜 大門神社・枇杷首神社秋季祭礼(射水)  
16・17 浦山の子ガ(黒部)  
20 柿沢神社秋季祭礼(上市)  
26・27 生地たいまつ祭り(黒部)  
3 雄山神社前立社壇の稚児舞(立山)  
第三土曜 潤建のえびす様渡し(射水)  
中旬 利賀の初午行事(南砺)  
15日に近い土または日曜 實の神まつり(入善)  
第4日曜 小川寺地区の祭礼(火祭り)(魚津)

## 「とやまの祭り」百選一覧

No.	市町村	祭り名(別名)	行事日	掲載頁
1	富山市	高砂山願念坊祭り	4月第2日曜日	8
2	富山市	猪谷の百万石行列	前回の行事日：平成15年4月17日	11
3	富山市	どべ祭り(新川神社大祭)	4月19日	12
4	富山市	子供曳山祭り	4月29日・9月23日	19
5	富山市	八尾曳山神事	5月3～4日	26
6	富山市	岩瀬曳山車祭(岩瀬諏訪神社春季例大祭)	5月17～18日	35
7	富山市	布尻・町長のお鍬さま オッカ様まつり	5月19日	36
8	富山市	山王まつり(日枝神社春季例大祭)	6月1～2日	38
9	富山市	西ノ番奉納相撲	7月8日	47
10	富山市	円隆寺祇園祭(さんさい踊)	7月14～15日	47
11	富山市	えびす祭り	7月19日	49
12	富山市	水神社祭礼(水橋橋まつり)	7月第3土・日曜日	52
13	富山市	熊野神社の稚児舞	8月25日	61・62
14	富山市	おわら風の盆	9月1～3日	63
15	富山市	草島の奴ぶり	9月6日	68
16	高岡市	気多神社春季例大祭	4月18日	12
17	高岡市	二上射水神社の築山行事	4月23日	17
18	高岡市	高岡御車山祭(関野神社春季例大祭)	5月1日	20・21
19	高岡市	大木白山社春季例大祭	5月2日	23
20	高岡市	川巴良諏訪神社春季例大祭	5月10日	33
21	高岡市	伏木神社春季例大祭(伏木曳山祭)	5月15日	34
22	高岡市	国泰寺開山忌	6月2～3日	38
23	高岡市	御印祭	6月19～20日	45
24	高岡市	戸出七夕まつり	7月3～7日	46
25	高岡市	高岡七夕祭り	8月1～7日	55
26	高岡市	つくりもんまつり	9月23～24日	74
27	高岡市	幌武者祭り	10月第2土曜日	82
28	射水市	新湊のボンボコ祭(舟幸祭)	4月19日(不定期開催、H19年度開催予定)	13
29	射水市	下村加茂神社やんさんま(流鍋馬)	5月4日	28・29
30	射水市	下村加茂神社の御田植祭	6月初卯の日	39
31	射水市	黒河夜高祭	8月23日	60
32	射水市	下村加茂神社の稚児舞	9月4日	66・67
33	射水市	熊野神社秋季例大祭(二口熊野社・火渡り神事)	9月8日	68
34	射水市	榎田神社秋季例大祭	9月10日	69

No.	市町村	祭り名(別名)	行事日	掲載頁
35	射水市	海老江曳山まつり(海老江加茂社の秋祭り)	9月22～23日	72・73
36	射水市	築山・新湊曳山まつり(放生津八幡宮の秋季例大祭)	9月30日～10月2日	75・76
37	射水市	大門神社・枇杷首神社秋季礼祭	10月第2日曜日	80
38	射水市	潤建のえびす様渡し	11月第3土曜日	87
39	魚津市	上村木七夕祭り	8月6～7日	55
40	魚津市	魚津のタテモン行事(たてもん祭り)	8月第1金・土曜日	57
41	魚津市	せり込み蝶六	8月第1金曜日に続く日曜日	58
42	魚津市	小川寺地区の祭礼(春・秋の祭り、火祭り)	1月第4日曜日、3月12日、10月12日	90
43	氷見市	まるまげ祭り(千手寺観音大祭)	4月17日	10
44	氷見市	ごんごん祭り	4月17～18日	10
45	氷見市	唐島祭り	5月3日	25
46	氷見市	コウラウラの祭り(厄神祭)	5月5日	32
47	氷見市	小境のエビス祭り	5月6日	32
48	氷見市	床鍋の虫送り	6月中旬	44
49	氷見市	祇園祭り(曳山)	7月13～15日	48
50	滑川市	赤浜の菖蒲打〔ショーブツ〕	5月4日	29
51	滑川市	加積雪嶋神社春季例大祭	5月21日	37
52	滑川市	櫛原神社春季例大祭	6月16日	43
53	滑川市	滑川のネブタ流し	7月31日	53
54	黒部市	明日法福寺の稚児舞	4月第3日曜日	14・15
55	黒部市	愛本姫社まつり	6月21日	45
56	黒部市	中陣地区のニブ流し	7月31日	54
57	黒部市	尾山の七夕流し	8月7日	56
58	黒部市	えびす祭り	8月19～20日	60
59	黒部市	愛本新用水天満宮松明祭	10月5日	77
60	黒部市	浦山のナガ(ナガと獅子)	10月16～17日	81
61	黒部市	生地たいまつ祭り	10月26～27日	83
62	砺波市	出町子供歌舞伎曳山	4月16～17日	9
63	砺波市	庄川観光祭(夜高)	6月第1土・日曜日	41
64	砺波市	砺波夜高祭り	6月第2金・土曜日	42
65	砺波市	神賑わい	33年に一度(最近は平成2年8月に開催)	64
66	砺波市	五ヶ種チョンガレ踊り	8月下旬日曜日	59
67	小矢部市	酒とり祭	4月11日	6
68	小矢部市	石動曳山祭	4月29～30日	19
69	小矢部市	天神獅子舞祭り	5月第4土・日曜日	37

No.	市町村	祭り名(別名)	行事日	掲載頁
70	小矢部市	津沢夜高あんどん祭り	6月第1金・土曜日	40
71	小矢部市	願念坊踊	寺院の法会や竣工式、9月3日	65
72	小矢部市	源氏太鼓	9月10日	69
73	小矢部市	護国八幡宮宮めぐりの神事	9月15日直前の日曜日	70
74	南砺市	宇佐八幡宮春季祭礼	4月第3日曜日	16
75	南砺市	下梨御巡行の儀	4月23日	18
76	南砺市	福野の夜高祭・曳山祭(福野神明社春季祭礼)	5月1～3日	22・23
77	南砺市	よいやさ祭り	5月2～3日	24・25
78	南砺市	城端神明宮祭の曳山行事	5月4～5日	30・31
79	南砺市	城端南町の七夕祭	7月7日晚	46
80	南砺市	荒木のねつおくり祭	7月土用の三番の日	50
81	南砺市	盤持ち大会	7月虫干し法会中の日曜日	52
82	南砺市	一心講おどり	9月2日	65
83	南砺市	城端むぎや祭	敬老の日(9月第3月曜)直前の土・日	70
84	南砺市	こきりこ祭り	9月23～24日	71
85	南砺市	五箇山麦屋まつり	9月25～26日	72
86	南砺市	利賀の初午行事	1月中旬	88
87	上市町	熊野神社春季祭礼	4月12日	7
88	上市町	神明神社秋季祭礼	9月21日	71
89	上市町	柿沢神社秋季祭礼	10月20日	81
90	立山町	芦崎寺雄山神社・神輿ねり(神輿渡御)	7月25日直前の土・日曜日	51
91	立山町	米道踊り	8月15日	59
92	立山町	雄山神社前立社壇の稚児舞	11月3日	85・86
93	入善町	芦崎えびす祭り	4月最終の土・日曜日(GWにかかる場合は前週の土・日曜日)	18
94	入善町	大磐祭	7月24日	49
95	入善町	吉原の七夕まつり	8月7日	58
96	入善町	吉原の恵比寿祭り	8月最終の金・土曜日	63
97	入善町	墓ノ木タイムツ祭り	10月13日	78
98	入善町	住吉社秋季祭礼	10月14・15日に近い土・日曜日(御神幸は2年に一度)	79
99	入善町	塞の神まつり	1月15日に近い土曜日または日曜日	89
100	朝日町	境神社春季・秋季祭礼	4月15日前後の日曜日(春祭り) 10月15日前後の日曜日(秋祭り)	7
101	朝日町	鹿島神社春季祭礼	5月3～4日	27
102	朝日町	米吊り奉納	7年に一度の10月に開催(最近は平成15年)	84
103	県内各地	やらやら・あがりもん	寺院の法会や竣工式など慶事	91



平成18年度

「とやま文化財百選」選定委員会委員

住蔵 久雄

佐伯 安一

陶 智子

本庄 清志

安カ川恵子（五十音順・敬称略）

編集・発行 富山県教育委員会 生涯学習・文化財室

富山市新総曲輪 1 - 7

電話 076 - 444 - 3456

<http://www.pref.toyama.lg.jp/>

発行年月日 平成19年3月

印刷 株式会社 橋本確文堂

R100

PRINTED WITH  
SOY INK

古紙配合率100%再生紙と大豆インキを使用し、  
環境にやさしい「やさしい印刷」を実現しました。



富山県教育委員会

